

# ミオヤの光

## 攝化の巻

- 1、本願力
- 2、信愛欲
- 3、光
- 4、光明は如來攝化の靈力
- 5、光化の人格これ證明
- 6、有余、無余、無住所の三涅槃
- 7、大光明中の生活
- 8、如來の心光に清められ
- 9、慈悲の力に扶けられ
- 10、身に左右されぬ心に
- 11、聖き御國に心は逍遙して
- 12、佛任せの安き心に
- 13、世は病めり
- 14、教えて還へる子は佛なり

## 本願力

本願力とは先づ本願の意は大ミオヤが一切の子に對する願望である。世間にも親が子に對する望みは子をして親自己と同一の位置に到らしめんとする。而して自己の志を繼がしめ第二の自己たらしめんとするにあり。大ミオヤも亦然り一切衆生をして成佛せしめて圓滿至善ならしむるにあり。

力とは如來の一大靈力が一切の子等を解脱靈化せしめ圓滿に養ふ力なり。此の力法界に周遍す。此の力太陽が光化熱の三線を以て地上の萬物に及ぼすが如く智慧と慈悲と靈化の三能を以て衆生

一

界の心靈を開悟與樂靈化するの能あり。如來の一大能力を以て萬物に及ぼすに二面あり。一方には大靈より萬物を發現能生養育する力となる是れ天地萬物に及ぼす能力である。他面には天則秩序の下に一切生物を進化せしめて人類の精神生活となる時は心靈を開發解脱して靈界なる涅槃に攝する靈力あり。

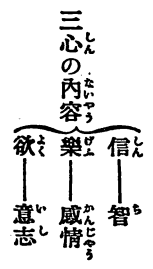
本願力とは自然界の生物を靈界に攝取る力を本願力といふ。大靈は右の手を以て蔭く種を左の手を以て攝取るなり天則秩序の中に因果の法則となりて萬物を能生能養するは其の目的は高等なる靈的生命として永遠に歸趣せしむるを目的とす。目的が即ち本願力なり。

其の本願を示す爲めに往昔法藏比丘と顯れ十劫正覺と現じまた三世諸佛となりて世に出現す。歸する處は大靈の目的なる本願力の出現に外ならず。

## 衆生の方より

如來本願力は常恒に十方に徧在す。然るに衆生如何にして此の靈的光明に攝取せらるべき。是れ衆生心が如來の本願力に契合して攝取同化する也。是ぞ大ミオヤが法藏と示現して本願四十八の十方衆生至心信樂欲生の三心なり。

三



四

此の三心は如來の大靈力の目的の靈力と契合する心能なり。

至心は形式にして信樂欲は内容動機なり能く研究すべし。

### 信 愛 欲

至心に深く信ず。

(心靈的歸命信順)

如來の外に我心靈を攝取し給ふものなし。(イノチトタマシイト  
ヲマカセ奉ル)

如來は生命のミオヤ

心靈のミオヤ

救のミオヤなりと信じ奉る

至心に深く愛す

(心靈的愛樂)

如來の外に心靈を愛護養育し玉ふもの有ることなし。故にすべ  
てのものに超へて如來の大なる聖寵を愛樂し奉る。

至心に深く欲望す

(心靈的欲望)

五

聖きみ國は眞善美の至極の處、聖き處に於てミオヤの世つぎた  
らんことを欲望し奉る。

六

### 光

聖なる斯光明我等が無明を擧きさまして眞理をさとらしむ。斯  
光宇宙秘密の奥室を啓示す。斯光生死の中に涅槃を與へ煩惱を轉  
じて菩提を成す。凡夫をうつして聖者となす。斯光われらのなや  
みの中に慰安を與へ。罪惡を變じて正善とす。斯光心靈世界の太  
陽なり。斯光を肉身に満しめて釋迦牟尼と現はれ、キリストと現  
はる。月球は太陽の光によりて明し。若人斯光によりて心靈を曬  
かすときは即ち聖者なり。斯光を知らざる故に生死闇黒の中にさ  
まよふ。

### 光明は如來攝化の靈力

如來の光明とは何なる相にてまた何なる働きを有ておる哉を説  
明せば光明に色光と心光との二種あり色光とは目光また電光の如  
くに肉眼にて見べきもの、心光とは心を照す即ち道理を明かにす  
る光明である。光明と云ふは實は人の信仰に對する如來の方より  
與へ玉へる靈力のことに宗教にては如來と衆生との關係を親と  
子に例し如來の親より衆生と云子に對する作用を恩寵と云ひ親の

七

恩寵を眞に受ける人の心を信仰と云ふ。故に恩寵と信仰とは親から子に對する聖意と子より親に對する心との双方の間に成立つ作用を云ふ。

華嚴經に譬を以て喩ば天に日光あり人に眼目ありて能く物を視べきが如く縱令如何に明眼あるも日光なくば見ることを得ず、またいかに日光明かに照らすとも眼目なき時は見ることを能はざる如く如來の光明は永しへに照らし玉ふとも人に信心の眼なくしては知見することできぬ。されば往生論註にも若し如來の光明は無礙に照らすものなれば何故に世間多くの人が見ることできぬぞ。との間にそれは日光は照し居るも盲者は見ることを能はざる如くに信心の眼なきが故に如來の光明を知見することはできぬなりと答てある。今光明と云事は私共の一心に念佛して信心を凝す時にミオヤの方より與へ玉はる不可思議の靈力であるまた恩寵とも稱へて實に如來は光明を以て一切衆生を攝化し玉ふこと太陽の光明を以て世界のすべての生物を活かす作用の如くに如來の光明は人々の心靈を靈活せしめ玉ふ能力である。其光明の存在に就ては實には理窟よりは實行によりて實感し得らるゝのである故に何人も其光明の眞理を聴きし上には一心に念佛して實地修行する時は信心萌發する時は實験上自己の精神の實感として何とも云はれぬ氣分となる。

## 光化の人格これ證明

如來の光明は日光の如くに肉眼で見ることができぬ。其存在を云何にして證明できやうとなれば今例を以て示さん、例へば太陽の光熱化に稻實を成熟すべき力能ある哉否やは目には見へぬ。然れども稻實は全く太陽の力の能力に依て成熟することは疑ふべからず。此には田土に種子を播下し水を灌ぐなごして一方には太陽の熱や化合線の力を被むるが故に稻實は成熟する故に成熟せんとする時期の天候は非常に稻實の成績に影響を及ぼす。是を以て太陽の光に稻實を成熟せしむる力の有ることを證せらるべし。此に例して如來の光明が人の精神を靈化するの光明は肉眼では見ることが能はざるも彌陀の光明威神の功德を聞きて其信根を培ひ一心に念佛する處に如來の不可思議の光明は其人の心靈に加はらん。人の本心は佛性の心田地あり如來光明の眞理を聞薰して之が其人の信心の種子と成つて念々佛を念する時は信心華開き花の如き感情及び増長せしめて信念益々増進する時は信心華開き花の如き感情及び情操の麗はしき人格は其内容に於ける信念の豊富なる處より現はる。

次に信念の益々堅實になり人格の核たる情操意志が全く靈化して最も道德と鞏固なる人格の神聖侵すべからざる如きに至るは是

全く彌陀の光明に靈化せられたる最も信心の成熟したる結果である。例へば稻が始め暖温なる和氣を受けて初めて萌發し次に苗として増長し花開きつゝに實を結ぶ如くは彌陀の光明に靈化した人格を以て彌陀の實在を證明することを得べし。聖善導、聖法然の如き最も圓滿なる靈的人格は全く彌陀の光明に靈化せられたる證なり。實は他の例證を引くに及ばず人々自から一心に念佛して彌陀の大光明に靈化せらるゝ時は自己の人格に結びたる核に於て證明せらるべし。

### 有餘、無餘、無住所涅槃

佛敎の宗教的精神生活即ち信仰の行程として人の精神生活に於て人が生れたるまゝの精神には自然に佛性と煩惱（本心と氣質）との二性ありて具有す。此精神が一は開發すべきもので二は靈化すべきものである。人は如何に天資聰明なるも其資質に豊富なるも質のまゝにては宗教心は活動的ならず。人の精神には必ず解脫し靈化せねばならぬ垢質が具有してある之を佛敎には通じて煩惱と云ふ。此煩惱なる惡質は自然に脱却すべきものにあらずして必ず之を脱却すべき契機を要す此れ宗教の必要なる所以である。若し人が宗教なくとも自然に解脫し靈化すべきものならんか宗教要なきにいたる。若しまた宗教の敎化を被むりても解脫し靈

化すべき性能なきものなれば宗教なきに至る。

佛敎、釋尊の宗教目的は那邊に在かと云はゞ人は本來質のまゝでは本心の靈性も發揮せず煩惱の惡質も脱却せず此のまゝではいかぬ。釋尊は自ら太子の時代に宮中に在て人生問題に煩悶しまた自己の胸中には無明なる不靈福なる垢質具有するが爲に精神生活が靈明でなかつた。然して後に入山學道の後に無上正覺を證得なされた當時從來の無明罪惡の人間の心が滅殺して靈なる光明を獲正覺を成して生死の凡夫が永生の靈と生れ更りなされた。之に於て精神的に心機一轉して生れ更つた此精神状態は實に無明の闇夜より正覺の旭出で新たに生れ人格が一變しなされた。從來は人間の肉に生れたるもの生死の凡夫なりしが永生の聖者と更り此に至て見れば肉體の上には異つたことなれども精神上に大革新した。之を有餘涅槃と云ふ。有餘とは餘依として此依身を指なり。此依身は替らざれども精神が更まりて。精神更まり來つて觀れば宇宙全體がまた新たに白日青天、從來の娑婆の關宅に在りし人が蓮花藏界光明裡の人となる。涅槃とは生死を超たる永恆常樂の境界にして極樂とも云ふ。即ち常住安樂自在清淨の靈界にして諸の聖者の心靈の安住する處實には客觀界に認識すべき處にあらずして主觀界に實觀すべき直觀の靈界である。此靈界に種々無量の莊嚴何も云べからざる至善至妙の境界が在る。

實を尅して論ずれば人の精神の最奥底を開きて圓滿に靈的に完成したる人の精神世界である。此光明主義の理想とする處の心的成就の極到である。

既に精神が宗教に依つて一轉し来れば此れ靈に生れ更りしなり然れども此肉體の有らん限りは自然の生理あり制裁を免れず飢寒困苦なきにあらす。

彌々此依身の報命盡きて分解するに及んでは心靈は曾つて理想的に安住したる靈界が實現し來る永恒常樂の寂光土が現はれ來る諸の聖者諸佛の常住に住し玉ふ理想の妙境界即ち常樂我淨の園に眞善微妙の花咲匂ふ所生死諸の苦惱脱して自然微妙の樂土の故に極樂といひまた無量光明土とも智慧土とも常寂光とも種々の麗はしき名を以て表せらるる處 是光明主義の最終の目的と爲る處である。

無住處涅槃とは、生死に住せず涅槃に住せず永恒常住に一方に涅槃界に安住してまた一面には生死界に分身應化して衆生濟度の事業未だ曾て暫くも懈廢し玉はざるなり故に無住處涅槃と云ふ。

## 大光明中の生活

宇宙全體悉く如來大光明中ならざるはなく其の大光明中に在つて其の中に自ら二面ある。宇宙は一面よりは自然界、他面は心靈

界前者を娑婆といひ後者を淨土と名づく。娑婆本より大光明中である。具存とは娑婆にも淨土にも如來の心身充滿せぬ處なし光明照らさぬ處なく如來を離れて娑婆の實體はない。然して衆生を本來如來の子である故佛性具つて居る。而して本願の光明に攝取せられ同化せらるる時は身は娑婆に在つて神は光明の生活である。然れ共身は自然に縛せられて娑婆に在るも理想だけは光明中の人、淨土にすみあそぶ想あり。然して後命終る時は今まで理想に觀じて居つた光明界が今度は實現となるのである。

であるから形から見れば娑婆と淨土と異れども精神から見れば何れも同じ如來光明中である。大光明中に在り乍ら肉眼は娑婆を見て居る。宇宙同一の如來中に娑婆と淨土の實體にかはりはないのである。それは法界の眞實義なのである。

善導大師、元祖大師にもそれは確かに現れて居つたのである。けれども衆生が分からね故に方便して宇宙が全く二つあるやうに教へたのである。

此土入聖はわけが異がう。一切處如來の光明中で亦から現在から光明中の生活になるのが圓具教である。さればとて全く無比莊嚴の淨土無しと云ふのではない全くあれども十方に徧在して如來心と相應すれば經驗が出来るので、實驗できぬとも大光明中の生活とはなられる。

次に眞宗は信心歡喜乃至一念至心廻向即得往生住不退轉と眞宗  
でいふ。信心獲れば此身此のまゝ即得往生これ矢張圓具教の一分  
である死なねば往生出来ぬと云ふのは超然主義である。

また圓具教には精神には現在ながら光明生活で眞實莊嚴の淨土  
往生は身の死後である。

### 如來の心光に清められ

只今淨土宗全書十九546増上寺觀智國師の語に又淨土宗は八萬  
說聖教皆是阿彌陀と見奉る他力實體の法門に至つては色心實相に  
して森羅萬象山河大地彌陀にあらずと云ふことなし。

天地萬物皆法身彌陀の現象として見れば野に山に紅に黄に染ま  
る梢も何かは彌陀の御ちからに感化せざるやある。されば宗祖の  
阿彌陀佛に染むる心の色に出でば秋の梢のたぐひならましの道  
詠におもひ合すれば野山の紅葉は法身の恵みに染まり宗祖の御道  
心は報身の慈悲に薰染して實にも紅に麗はしさを呈して美しさを

現はせる御すがた眼にも見へばいかに麗はしからん。野山の木の  
葉のそのの如くに何人も一心に念佛して如來の慈光を被むるあら  
ばよりく清らけく麗はしくうれしくも樂しくも法悦と三昧樂と  
の妙味は感せざらめやは。おもへばありがたや。

御玉章に接し御地の模様を承はりうれしく存じ候

山崎垣田由布家のいとも清き優婆夷の四たりの君の御發起にてき  
よき集の御仲間が成立したとの事をうけたまはり上なき悦ばし  
さにて是ぞ

大悲のおや様の御はからひと存じ深く感謝し奉り大悲のミオヤは  
永瀬上人の身を通じて斯くは御はからはせ玉ふものと存じ有りが  
たく感じられ候

就いては會名をこの仰せ

我々は一度大みおやの御許を離れ久敷六塵のちまたにさまよひ生  
々世々あらゆる塵と埃に汚され實に己ながらもかへりみれば恥敷  
心のすがたとはなりぬ。それを憐れみ玉ふみおやの恩寵。無始已  
來の染汚をそゞぎてきよき聖意の子らとして靈育し玉ふ思召を経  
に其れ衆生ありて此光に遇ふ者は三垢消滅し身意柔軟に歡喜踴躍  
して善心生せんとの聖意より心光常に我らを攝化し玉ふ。我らは  
口々に娑婆の塵埃中に在るほどは誠に如來の心光に清められざれ  
ばならぬ身、日々塵埃にまみれるが故に清めを仰がねばならぬ友

なればそれを常に忘れぬ爲に

清き友と云ふ名を以て結ばれ玉はんことを願候

如來は靈光を以て清め玉ふみおや、我らは稱名を稱へて清めらる

ゝものゝ其會まりが即ち友にて候

此友のなかにはどうのむかしから入會なされて在せし觀音勢至の

兩ぼさつの御名を忘れぬ様にねがはしく候

そは觀音勢至兩ぼさつの名を稱へて念せよとの云ではなく

若念佛する人は人中の白蓮華兩ぼさつも常に勝友と成りて愛護し

玉ふとの意味にて候

されば友の衆は生れた計りのまだ赤子の觀音さまなので觀音の

頭に常に阿彌陀如來がましゝて離るゝことなき如くに我が愛敬

する處の友の衆の御こゝろにいつもゝ大みおやの如來のはなれ

ぬ様に一にきよき名を稱へて念じ玉はん事をねがはしく候

### 慈悲の力に扶けられ

歡喜光裡に新年を迎へ無量壽の靈名を稱へて壽ぶき奉つり候

寒風肌にさむき夜もあたゝかなる大ミオヤの慈悲のふところにす

むこゝろよさ。

其のちは如何に在らせられ居候哉。今日はよき御天氣とおもへ

ばまた翌日は風が吹き出でゝ風が靜かに成らんとすればまた曇と

なり雨となるほんとうにうるさき世と云はゞいふものゝ其中に娑

婆の變化きはまりなき趣のあるのである。此世の中に生存するほ

どはこの心配が漸くかたづいたと思へばまたつきに一の心をつか

はざればならぬ事わき出で來る。ほんとうにいつに成りたならば

何のこゝろがゝりも無き眞にのぞかなる心の春に成るであらうと

大かたのひとは思ふのであらうけれども、それは風も雨も曇も暑

さ寒さもなき一年中をのぞむやうなもので無理な要求である。風

も雨もあつささむさもみな常の天地の働としてせんければならぬ

ので只人間の都合や勝手のために天地は働きなして居るではない

故に自分の方から天地の氣にかなふやうにして行かなくてはなら

ぬと存じ候。此の世間を娑婆と云ふのは娑婆とは梵語にて譯すれ

ば勤忍士、勤忍士とは此世界自然にも又人間同士のなかにも相互

にいか成ることに堪へこらへざるやう云ふ事にも忍ばねばならぬ世

界と云ふのである。いかなる憂き艱難にあうてもそれを勇ましく

大丈夫に戦ひて打ち勝つ力を以て忍ぶのが強忍とよぶので、どの

やうな事に對しても甘き物をたべるやうに安んじて忍ぶのを安忍

といふのである。けれどもそれは並み〳〵の人には叶はぬことで

實に絶對的に偉らい力あるものゝたすけによつていかなることに

も偉い〳〵慈悲と御力とによりて非常な力を加へていたゞき、た

すけでもらうて光明の日ぐらしを得らるゝのが即ち念佛者の生活

である。

願くは大慈悲光明中に安き御日ぐらしあらん事を望候

### 身に左右されぬ心に

承はれば長時間に渡りて全力を注ぎ爲されて折角に積累したる要塞を一朝の砲撃に破壊せられしは如何にも遺憾千萬實に同情に耐えず候併しながら失敗は成功の基其の經驗に鑑み益鞏固なる降魔の策を施し爲されん事を希上候

御書中に身體の健否は精神に及ぼし精神は身體を支配すと云ふ事に疑を生ずと云云。實に御尤に存じ候

本より佛教に色即是心、心即是色とて色とは物質即ち身體の事にて身體と精神とは不一不異の關係を以て居り身體の故障は忽ち精神に及ぼし身體がそのまゝ精神とまでも見做す事も有之候。然して精神の働き幼稚なる程精神が身體に屬する關係深く候。例へば人類以下の動物及び人類の幼年者の如きは身體の外に精神の働を認むること無き位にて候。而して頭腦の奥の底より高等なる理性が顯動するようになりて精神が、身體を支配するようになりて相成候尙進んで靈樞性が正しく顯動するに随つて彌心靈の勢力が強くなりて身體を支配する様に相成り候。普通凡夫は精神が身體に支配せられ進みくして聖人と成る時は精神の力と格が非常に高等に相

成る故に精神の靈力益遠大になる故に身體のために精神が左右せられざることに相成り候

兼ねて申演じ候通り精神に天性(生理的)理性靈性と三階に分つ時は天性的の精神は全くすべての動物の共通性にて身體が其まゝ精神かと思はるゝ位なものにて候。

若し進みて靈性の充分發達したる聖人の如きは身體の爲めに精神を左右せらるゝことなきが如し。

ソクラテースが從容として毒を呑み釋迦牟尼が六年苦行身體疲勞すれども精神は全く健全なる如く宗教の旨とする處靈性的精神に宇宙大なる大靈の力を被りて心靈の力能く自己の肉體を慰安し肉體を能く扶くるに至も天性我は肉體の支障のために影響を被むること免れざる處なり。

願くは大靈の力を我靈の力として宇宙と共に洪大なる心靈を發揮して自己の身體を加護せんことをこそ願はしく候。

### 聖き御國に心を逍遙して

大ミオヤの慈しみを傳へん爲にこゝかしこめぐりしに大に延引に相成候事慚愧に耐へず候。稍春暖之候に相成候昨今云何被爲居候哉御書翰によれば御病氣にも拘らず聖き道に益々御すゝみなされ候由隨喜に不堪候



五井の君よ。可憎病魔のために襲はれしは何とも同情に勝へず候へども、それでも貴重なる光陰を悶の中に埋めてしまふようなことはせず、永遠に靈活すべき聖道を求め肉をかへりみず靈に活くべき眞理を捕獲することあれば禍も變じて福となることにて候。世の人のおもふ幸福必ずしも眞の幸福ともならず候。とかく健康にして百年のいのちを保つともたゞ徒らに肉の爲めにほだされて空しく過し候へば何の所詮かあるべきぞ。

如來は絶對無限の光明なれど其光明を我が物として、如來には本より親子にして候へば親のものは子のもの親の無限の光明が即ち我心の光と相成候。しかれば如來と共に我が心も宇宙に周遍してのこりなく候。

風雨にあらざる限りは人間の建てた狭い家屋より出で、而して大ミオヤのかぎりなき蒼天の青硝子の屋根の大きな住み家の中に大ミオヤより使はされし太陽の能力より出づるオゾンとそれから新らしきよき酸素の豊富なる空氣をほしきまゝに吸うて而して人間界の方を見ずして大ミオヤのまします天つみそらにこゝろを逍遙してこゝろは聖きみ國の人と成り候へばかへつてよろしき事と存じ候。實は愚禰事明治三十三年頃肋膜炎と肺炎とに患部を構ひ少しは咳血もいたし候こゝろを大ミオヤにまかせこゝろを本にして養生いたし候漸々恢復いたし今日の狀態に相成り候随分夜を日

につぎて二人前ほどの仕事をいたしつゝとめ居り候是また自分の力ではなく大ミオヤの御恵に候。願くは大ミオヤの慈光のなかに平和なる心の御ひぐらしのほどを祈上候。

### 佛任せの安き心に

承れば此頃の御からだの御容子春ごろにくらぶれば何ほどかは御快よきに向ふとの事大慶此事に候。いけらば念佛の功つもあり死なば淨土にまわりなむとても角ても此身にはおもひわすらふことなきとの宗祖の御語のように此世に在りても光明中の住居なれば敢ていなむべくもあらじ。さればとてかぎりある世を強て留らむとおもふにもあらぬ身には自づと御佛の思召にかなふもの故この身に持ち來りし丈は毫も残さずにつかうてゆく物とおもふ。敢て強ちになき命迄をもとゞまらむなごゝおもふ人は自分で自分の命を心から氣をもみころしてしまふのおもふ。佛まかせの安き心と成りぬれば自分で自分を殺すやうなことはない。今回が論廻生死のまはりじまるとおもへばまづは大抵のことは忍びて一日なりとも娑婆悲劇も充分に覽見するもまた一しほの興味あることにて候。實に此世界の大活動劇は神が物したる脚本かまたは衆生が作りて見たり見られたりかは知らねどもこれほどの大舞臺にすみから

すみまで喜劇も悲劇も悪漢も善人もいかなる處にも演出せざる處なきにいたつたの外になく候。

楽しい悲しいもみな夢幻。此夢幻がまた一しほである。はげしくかわつてゆく處に趣味が深いとおもふ千變萬化變化のはげしいはごおもしろい味も多い。

○承はれば追々に御快方に向なされ候との事。

大ミオヤより大決心をなさしめむとの聖旨より一度しやばの假の身の何時替すべき日の來るにもあはてぬようとの深き思召の然りしことならんと存じ候へば實に御親さまの至れる盡さる聖意は只々仰ぎて感謝するの外之なく候

先帝の如く文明的の醫師はあらゆる手を盡しすべての術を施し奉つるもまた五六千萬の臣民等が佛に神に祈り奉るともいかにぞも致しがたきは大ミオヤの聖旨に背き奉つることならぬ大ミオヤはいか成聖意によりて御引上げ遊ばされしかは人智の測知する處にあらず。維新以來吾國民は天皇陛下の外にての大なるミオヤの大権能を信せず人間の力が宇宙を自由するかのようにな計す。其國民のいと幼稚なる智慧淺きものをさごらしめんが爲に大ミオヤより引上に相成り人間はすべて天の大ミオヤの大権には信順すべきを示し玉ふとおもへば大ミオヤの慈悲のふかさはたとへばやそ敬にて

天のミオヤはすべてをわはれみ其愛を表はす爲に一りの子を犠牲にして罪ある衆生を救ひの道を示し玉ふのごとく大ミオヤは人間の智と力とは決して估みに成るものならざることを我國民に申し玉ふことならめと存候。吾國民は大に覺醒して天の道に信順すべき動機を與へられしもいかなせん宗教家の其理を示し人民を救はんとするもの有なし只心あるもの自ら信する外なし貴姉も此先の命は全く大ミオヤの特寵より與へられしものと信じて光明の中の日ぐらしのほごを祈候

○此頃御病容いかゞ在らせられ候哉よしや御身御床のなかにもせよこゝろは彼のみだの淨土におもひをすましめ玉へよ。しかるに彼のくにのよそほひ其寶の樹のさま一切のもろくの寶を以て自然に合成し無量の光り照す微風ゆるく動きて諸の枝葉を吹くに無量の妙なる音聲をいだす其音流布して諸佛の國に徧す音を聞くものは深きさとりを得るとかや。八功德池の水に心をすましぬれば我心も自づと湛然としてすみたゞえ清くいさぎよく甘露を味ふごとくに感じらるべし。黄金の池に水晶の砂はかゞやけり意を水にすましぬれば調和冷煖にして自然に意にしたがひて神を開き體を悦ばしめ心垢を蕩除てきよく明らけく潔くして形なきがごとしかや。我を忘れ身をわすれ神を淨土にすましぬればこゝもまた淨土にてぞありける。

○謹しみ惟みれば梅花發くを待つ冬の末つかたより御地に留まり梅が香をわづか名残にとむるけふに至るまで幾回の日を重ねて何かた御心盡しの御もてなしに預り御厚意の程感謝に而へす候。

願くば此因縁を以て御全家御心を一にして益佛の大道に進み人生一大事の因縁たる佛知見を開示し佛の正道に悟入せられむこと希望に勝えず候。寔に有爲遷流の世は光陰馳行くこと須臾もとまらず若し怙み難き明日を期して道業を修さむと爲んとすることならば一生空しく過してついに得處なく闇に入りて何の生にか光明に接することを得む。

古人云く此身今生に向て度せずんば假令彌勒の下生を待つとも竟に解脱の時なしと寔に人生一大事の因縁は自己の靈性を開發し大ミオヤに親近し聖旨に隨順して今身より永遠の生命を得るにあり若し靈性開發する時は此處即ち是涅槃極樂界なり何ぞ必しも此身の命終を待つて初めて淨土に生るゝことを要せむ。

大ミオヤ慈悲の眸を注ぎて子等の信念を催し玉ふ願くば冥想觀念して大ミオヤの聖意に合明せむことを希ふ御好意に報ゆるに道業を勧め候こと斯の如くに御座候。

## 世は病めり

蕭しみて白し候先つ頃は八重九重に咲匂ひぬる櫻の花も散りは

てて今年の春の名残りを告る今日此頃物寥しく感せられたまた新緑のみどりを添へて樹々の梢にも

大ミオヤの御圖らひの程を感じられ碧深き木の葉の色も嬉しげに有るよろづのなかに

大ミオヤの恩寵のこもらぬくまもなく是を見彼を聞くにもありがくてぞありける。

さて此程は、深く御配慮にあづかり、ありがたくそんじ候。思ふに已に數年前よりの病氣を自ら知らずして今日に至りしものなれば、已後よく注意してあまり無理なる事をせざれば急激に進むこともないものならんと存候。毎日々々それでも如來様が御使ひ下さるには格別に差支なきことならんと存候。

されども御親切なる御注意を被り有難く存候。爾後尙一層注意いたして養生する事に心懸け候。かたじけなく御禮申上候。

實は其病氣よりはもつとく容易ならぬ病氣の爲に常に頭を悩ましつゝいつ此病氣が何分なりとも快き方に向ふものならんと案じて止まぬ次第にて候。

昔教祖釋尊の御在世に維摩居士が重き枕に臥ける時に釋尊が御心を惱ませ玉ひ誰か居士の病氣を訪問せよと仰せられ玉ひしかども誰も皆維摩居士を恐れて、私が訪問しませうと云ふものが一人もありませんでした。最後に文殊菩薩に仰せられて居士の病氣訪

問と云ふことになりました。すると文殊菩薩が居士に、たづねに成りました居士よ全體貴士が病氣の性質はいか成る病氣で御ざると問ひますと、居士は、實はわたくしの病氣は一切衆生の病氣が私の病氣なので、衆生の心の病が治らぬ間は私の病氣の治りようはありませぬ。殊に〜私の心にかゝる病氣と云ふのは釋尊の御弟子の名前こそつけたれ實には精神的に本とうの御弟子となつて居らぬのである。いかにも其等弟子等の病氣を治してやらねばならぬと云ふ病氣の爲に私の病氣はいよゝ重くなつたのであります。

今愚禰の病氣もこゝにあります。現に日本人は種々の事に酔うてしまつて眞實に眞面目に人生を大ミオヤの聖意にかなふ様な生活なさねばならぬと云ふ眞面目な人物は實に稀にして兩夜の星を見る様に感じられます願はくば此日本の國民が宇宙の大いなるミオヤを眞實にミオヤと信じてミオヤの子であるとの自覺を以てミオヤの聖意にかなふ人生となるやうにねがはしく此衆生の病氣がもつとも愚禰の病氣にて寝てもさめても惱んで居る次第であります。たとへ至治には到らざるも何分かは前途に光明を見まほしくて候。

尙此心の病氣につきても一心に大ミオヤに一切衆生の病氣手癒を祈り申と共に此からだの病氣につきても一層御注意いたすべく

候

尙先日敏子様よりの書簡に對して御返事もいたさずつひにのびのびになりまことにすみ申さず、願はくば大ミオヤの聖き御名を以てます〜聖意に仕へ奉らんことを大ミオヤの聖き名を以て祈り奉候

### 教へて還へる子は佛なり

時蕭殺たる風に野山の草木も凋れて何となく無常之觀は天地に充ち満てる頃ほひ此頃光徳寺上人よりの御便りによれば御子息喜代司君には御丹誠の甲斐なく遂に永眠なされしこの事。先年はじめて知り初めてより求道の御志深く未頼母敷存候ひしに其後は東西隔りたりと雖云何なされるかと心にかゝりつゝありしところ此度ついに其訃音に接する事になりしは今更の感にうたれ候。あゝ生者必滅は娑婆の習老少不定は人界の掟とは思ひながらも實に驚歎此事に候。ついてはむかし泉の式部がその息女小式部の内侍に先きだれし頃ほ悲しみのあまりに。『もろともに昔の下には朽ちずしてひとりうき目を見るぞ悲しき』との歎きをおもひてあんなの御悲しみに何とも同情に耐へず候、然るに和泉式部はそが動機となりて性空上人の教化をうけ後には念佛三昧の門に入り深くみだの慈悲の薰習し口に稱ふる所は彌陀の名號、意に念ずる處は

如來の御慈悲、いつとなく染まる心は秋の梢の紅にいよ／＼深きを増しぬる後には斯は思ひしにや。

曾て佛敎を學びしは歌をよむ材料を得むが爲位にて習ひし佛敎なれば一大事我息女に先きだれし時にのぞんで見れば其佛敎は我が深き慟哭の情をたすくるの力なく娘の眼前の無常こそ眞實の佛法を求むるの媒となりついに活ける彌陀の慈悲に觸れて初めて生れ更りたる式部となつた其頃に

夢の世に仇にはかなき身をしれと

教へて歸る子は佛なり

と眞の信仰が出来て立かへりて願れば我子こそは眞の善知識若しも小式部が導びいてくれねば只だ佛敎を歌の材料位にとめて全く自己を現在より永遠の生命に救ふべき眞理なるを知らずしてしまつたであらうと思へば娘は身を犠牲にして我を眞實の佛法に導びきしものとすれば教へて歸る子は佛なりと感ぜざるを得ぬ次第ならんと思ひ候。五井夫人よ先立ちし喜代司君は眞實にあなたを導びきなざる善知識であります。

あなたの悲しさの深ければ深きほど大ミオヤの如來さまの慈悲の御手に御すがりなさりませ。

あなたの慈悲の手より洩れたるをかなしひ大ミオヤの如來の御慈悲の御手を離れぬやうに稱名を稱へて意には一ら如來の御慈悲

にたよるやうに御すゝめ申上げます。

### 南無阿彌陀佛

大正十一年五月一日發行

一ヶ年前金郵税共一圓二十錢 隔月發行

編輯兼發行人 山崎 辨 成

印刷人 秋場 熊太郎

發行所 ミオヤのひかり社  
東京小石川區水道端二丁目四十四番地

振替東京四九三三八番